

2024年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(夏期・一般選抜) 問題

専門科目 日本思想史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

2024年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(夏期・一般選抜) 問題

専門科目 (日本思想史 専攻分野)

成	
績	

一、今後研究しようとするテーマの思想史学上の研究意義について論じなさい (20行程度)。

二、次の①～⑤について簡潔に説明しなさい (各3～4行程度)。

① 伊勢参り

② 儒家神道

③ 柳田国男

④ 戦後歴史学

⑤ ウーマンリブ

三、次の史料をわかりやすい現代語に直しなさい (40行程度)。

彼れは善く自ら住せる社會の實況を知れり。彼れは決して空想の中に生活する者に非ず。想像の中に苦樂する者に非ず。彼れは已れが住する社會の潮流を解せり。

彼れは儒生なりき、而れども彼れは當時の儒生が有せし一種の「メン・コンシエツ」に陥らざりき。文學の勃興と共に儒生は多く自己の地位を忘れたり。彼等は自己を以て治國平天下の大道を講ずる者なりとなし、己れを見る太だ高く醫師僧侶と並び稱せらるゝを耻としたりき。然れども是れ實に謂はれなき傲慢なり。時勢を解せざる者也。自己の地位を知らざる者なり。

徂徠は儒生の斯の如く高ぶれるを冷笑せり。彼れ謂へらく今の天下は武士の天下也、其禮服は戦時の服裝なり。大小を横へ、馬に跨る者皆武士に非ずや。而して其政治は即ち軍中の政治なり、其法律は

武斷なり。吏たらんと欲すれば唯之を習はんのみ。文學に長ずと雖も何ぞ仕途に益あらん。李杜再び生ずと雖も執政、參政となるの道なき也。此故に文學の士は唯通信達旨に用ひらるゝのみ。然らば則ち臂のしを取る何ぞ儒の筆を把るに異ならんやと。

嗚呼是れ徳川史を通じて、儒生が經世實用の才に乏しく、徒に文字の綺麗を競ひ、空辭浮文に一生を暮らして、武士の爲めに嗤笑せられし所以なり。而して儒生たる者自ら其斯の如きを解せず、傲然天下の師を以て任じ、經を挾んで人に倣ふ、其自信或は愛すべしと雖も、自ら知らざるの愚に至つては亦慙むべからずや。而れども彼れは自ら其地位を知りたりき。

(山路愛山『荻生徂徠』)

受験記号番号

3/6

受験記号番号

 $\frac{4}{6}$

受験記号番号

$$\frac{5}{6}$$

受験記号番号

$$\frac{6}{6}$$